

ふるさと河内

発行所
南河内
むらづくり塾

新年のごあいさつ

むらづくり推進協議会

会長 山本孝夫



新年あけましておめでとうございます。今年も皆様方にとりましてよき年でありませう。心からお祈り申し上げます。
昨年三月十一日東日本大震災が発生し二万人以上の尊い命を失いました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。
南河内むらづくり塾の活動も今年で十八年目を迎え、「菜の花フェスタ」は十五回目を迎えるとしております。
むらづくり推進協議会長をおせつかりまして六年が経過い

謹賀新年

岩国市長 福田良彦
岩国農林事務所長 山崎彰
山口東農業協同組合 代表理事組合長 神尾透
錦川森林組合 代表理事組合長 森重和美

たしましたが、その活動のなかで私が重要視して取り組みましたことが「南河内を宣伝」することでした。
イベントでの宣伝は平成十九年の「第十三回記念イベント」ポスターをネットに貼り付けたことから始まりました。平成二十年の「第十一回菜の花フェスタ」ではポスターのネットへの貼り付け、新聞各社にイベントのお知らせの掲載、清流線の各駅及び清流線客車へ張らして頂きました。

新年のごあいさつ

南河内むらづくり塾

塾長 山本守



あけましておめでとございます。輝かしい二〇一二年の新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。
昨年三月十一日の東日本大震災、台風十五号等、かってこれまで体験した事のない大災害に日本中が驚いている中、被災された人達の力強い生命力、絆を大事に頑張っておられる姿に心をうたれました。一日も早い復興を願ってやみません。

この年からむらづくり塾長が「アイキャン」へ南河内駅の桜と清流線列車をバックに菜の花の中からイベントの宣伝が始まりました。二十年以降イベントに關しては出来る限りの宣伝に努めてまいりました。
おかげさまでイベント参加者も以前の倍以上のお客様が来場しておられるように感じております。又、南河内むらづくり塾が発行しております「ふるさと河内」も平成二十年八月十五日発行（三十号）から今年度一月一日発行（三十七号）までをネットに貼り付けて「全国の皆さん？」に読んで頂いております。
今後とも南河内を多めに発信して行きたいと思っております。発信手法等でご意見がございましたら事務局までご連絡ください。これからも、諸先輩が築かれたビジョンに添えるよう心を入れて取り組みたいと思っております。地域の皆さんを始め関係各位の尚

幸いにして私達南河内地区は何事もなく、おだやかな一年であつたかと思ひます。私達むらづくり塾も「みんなが喜んで住む南河内むらづくり」に少しづつではあるが、前進しております。
今年一年春の菜の花フェスタから、秋の記念イベントまで計画にそつて塾生一同頑張つていきたいと思ひますので地域の皆様をはじめ関係各位のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

一層のご支援ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。
この紙面をお借りして、南河内運動広場の防球ネット張りの陳情を一昨年の八月に致しました。が早速昨年の暮（十二月）に着工して頂き張り終えました。ことをお知らせしておきます。

河内ふれあい広場 開設十七周年 記念イベント

十一月二十七日、開催された十七周年記念イベントは沢山の来場者でにぎわった。



もちまき

前々日あるいは前日からの準備、当日七時からの会場設営も例年のことながら実に手際よく進む。これも各方面の方々のご協力、スタッフの熱意の結実である。開場時間前からの早めのお客さんが見えていたので早めにお客さんとなった。ふだん子供の姿を見かける事の少ないこの地域で、小さな子供連れの家族も沢山集うのは活気があつていいものだ。
毎年好評の福引券でお米が当たつて「このお米は美味しいから嬉しい」と声をかけてくれた人がいてこちらが嬉しくなつた。「朝市で買った野菜はスー

菜の花フェスティバル (2)案内

平成二十四年度の菜の花フェスタを今年も椎尾八幡宮例祭に併せて、左記の通り開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

- 一、期日 四月八日(日)
- 一、会場 岩国西中学校広場
- 一、行事の内容
- 新鮮野菜、加工品販売
- バザー(焼そば、うどん、炊き込み御飯、餅、コーヒール等)
- 餅まき、宝さがし
- カラオケ大会
- よさこい踊り
- 菜の花ぞうすい無料配布
- その他

パーのものと日持ちが違い、鮮度も味も格段にいい」とはよく聞くことで、これも有難い事である。生産者のご苦労あつた結果であるのは勿論だが。
私は数年前からこのイベントなどの裏方に参加させて貰うようになったが、皆さんのテキパキとした働きぶりや和気あいあいの雰囲気、誘って貰つてよかったなあと常々思つてい。他所に住む友人たちにこのイベントや朝市のことを話すとみんな羨ましが。これから若い人達が増えればどんなに素晴らしいことかと思ふ。
お天気にも恵まれ、どの売場も早めの完売となり、お楽しみも餅まきで今年のイベントも無事に楽しく終了。関係者の皆様から感謝いたします。スタッフの皆様ご苦労様でした。

西土生遺跡に思う

平成三年作成の「山口県遺跡地図」によれば、旧岩国市では、三十八箇所の遺跡が知られており、その内、城跡や生産遺跡を除いた生活跡地はわずかに十四箇所、今回の西土生遺跡は三十九箇所（十五箇所）目となる。

南河内地区に隣接する玖西盆地では、縄文時代から江戸時代に至るまでの遺跡が多く知られているが、この西土生遺跡のよりに、同一場所で縄文から現在まで継続した遺跡は見つかっていない。三十九箇所の遺跡の内、ここを中心とした半径一・四キロ内に、南河内五箇所、北河内二箇所、計七箇所がある。縄文時代の打製石斧、磨製石斧、土器弥生時代の石包丁、古

墳時代以降の土師器（素焼き）、奈良時代の須恵器（一千℃以上の高温で焼成した硬度のある焼物）、平安から鎌倉時代にかけての中国製の青磁・白磁、江戸時代の国産陶磁器など、数多くの遺物が発掘されました。



これら事実から、縄文晩期約二千五百年前から現在に至るまでほぼ同一箇所に永々と人が住んでいる。旧岩国市区域では、当地域は早くから人が住み着いて来た地域のひとつであると言える。

ゆっくり登ろう 富士登山3日間

七月二十七日、スバルラインのバスの終点富士登山五合目（二千三百五m）十五時到着。観光客や登山客で賑わっていた。レストランや売店が立ち並び、全国から、いや海外から老若男女が押し寄せている。地元の間五人と富士登山ツアーに参加総勢三十九人。

二年前の登山は悪天候で山頂につくのがやっと。今回も同じような天気だ。山頂を目指して「ガンバロー」氣勢が上がる。山頂まで標高差千四百m、一度も下がることなくひたすら登り続ける山だ。山頂まで六時間と案内されているが、今回は時間に余裕をもってゆっくり登山を心掛けた。七合目から溶岩の急斜となるが次々と続く山小屋

の照明で歩くことに問題はない。一日目は体を慣らすために七合目の山小屋に一泊する。二十一時着。山小屋の定番カレーライスを食べ大部屋の二段ベツトに、山小屋はとにかく人が多くメザシみたいに細くなって寝袋に寝る。かなり窮屈だ。二日目（雨）五時出発 富士山



のほんとうの登りは八合目からが正念場だ。標高三千四百m急坂を折り返しながら高度を上げていく。最後の胸突き八丁を登りきれば頂上だ。しばらく登っていきくと、行列が乱れ始めた。ガイドの動きが慌しくなり「具合の悪い人はいませんか」登山道には頭痛や吐き気を訴えて動けない人もいる。高山病だ「深呼吸して下さい、水を飲んで下さいと大きな声を出していた。」

二日間で八人がリタイアする。昼過ぎにようやく山頂に到着。お鉢めぐりはアップダウンのくり返し、四十分後、最高峰剣ヶ峰三千七百七十六m山頂に着いた瞬間の喜びは何物にも代えがたかった。雨と霧で頂上からの眺望は残念だ。しばらく登頂の喜びを噛み締め下山の途に。砕けた岩や砂礫（されき）細かい

上田わかば会

十二月七日はたのしい若葉会でした。机上いっぱいのご馳走「何もない、いつも通りですが」と光枝さんの声「イヤイヤこれだけで十分過ぎます。私達はこうして皆さんと一緒に会いできて、お食事ができることがなによりうれしいのです。」と会が始まりました。

私達の地区（上田）はだいたい月一回、年に八回、一番の年長者は九十三才から下は七十五才、一〇人集まります若葉会と名付けております。そして四月は花見、十二月はクリスマス会という事で御馳走を作っていただいております。



砂利、滑りやすく足を痛めやすい。八合目十七時着 二泊目

三日目（曇り）四時出発ご来光拝観とはいかない。眼下に富士五湖、箱根、南アルプス、遙か彼方雲海に浮かぶその姿はとても雄大で神々しくもある。山頂から眺める時、登りの苦勞は吹き飛んでしまう。そんな魅力が富士山にあるのかも知れない。辛い厳しいことが続くが楽しいこともあるという意味では登

この会の始まりは平成十七年からです。今年で七年になります。長い間よくお世話して下さいました、穂本さん、今崎さん、石丸さんに感謝感激です。体操をしたりゲームをしたり何かと工夫して、またこれが一番の魅力かもしれません、おしゃべりに花を咲かせます。普段の老女達は家の中か、気ままな仕事で人に会える事が余りありません。若葉会の日をたのしみにして待っているものばかりです。この場をかりてお礼を言わせてください。光枝さん、ミサコさん、久枝さん、ありがとうございます。ありがとうございます。上田 岡田キクエ

山は人生そのものだ。あとは日本一高い山ということに登頂すると自分の中の糧にもなる。また時が来たら登って見たい。今井 春良 筆

編集後記

開けましておめでとうございます。昨年、二〇一一年 日本は多くの苦しみと悲しみを経験しました。その苦しみ、悲しみをみんなで乗り越えようと、たくさんの「がんばろう」が叫ばれました。新しい年を迎えても忘れる事なく「がんばろう」を続けていきたいと思えます。今年一年が皆様にとって、どうか良い年でありますよう、心より祈念いたしております。泣いて過ごしても一日、笑って過ごしても一日、同じ一日なら笑顔と一緒にがんばりましょうね。